令和8年度　アーツ前橋事業評価調書（展覧会用）

資料　3-(1)

事業名	塩原友子の日本画　線と表現、その先の祈り					
担当者	辻瑞生、武田彩莉（学芸）、上田健司、関くるみ（事務）			実施方式	01自主企画・単独方式	

印刷物等	ポスター（B2）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド（両面）	リーフレット	図録
	800 部	35,000 部	内部印刷	7,000 部		1,000 部

収入／支出	収入（A）	支出（B）	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	収入内訳		
					観覧料	助成金	他
予算	9,982,830 円	13,845,660 円	72.1%	3,076.8 円	1,060,000 円	2,000,000 円	6,922,830 円
決算見込	8,433,335 円	11,373,470 円	74.1%	3,137.5 円	746,600 円	2,000,000 円	5,686,735 円
差額	-1,549,495 円	-2,472,190 円	2.0%	-	-313,400 円	0 円	##########
予算/決算	84.5%	82.1%	102.8%	59.1%	70%	100%	82%

・広報戦略 ・新たな試み	・作家出身地の自治会や作家の関係者（偲ぶ会、教え子等）を内覧会に招待し、口コミでの効果を期待した ・小中学生向けのワークシートを作成。特に作家出身地の小中学校へは全児童生徒に配布した ・地元作家の展覧会であるため、市広報やポスター、チラシなど紙媒体の広報に注力した ・地元企業の協力を得て、同時期に同作家の個展を市内ギャラリーで展示した
広報実績［新規掲載や効果大の媒体など特別な案件］	・アンケートによると周知の契機としてポスター（17.7%）、チラシ（15.3%）、知人の紹介（14.8%）が通常展覧会よりも高い割合を記録した ・アンケートによると前橋市内（45.5%）、群馬県内（28.2%）を中心とした地域住民の来場を得た

入場者数(参考数値) 上段：人数（人） 下段：割合（%） ※色付きは有料	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	障害者	招待券	割引等	他	イベント	合計（人）	日平均（人）
	893	72	406	38	188	162	951	165	1,644	222	3,625	82.4
	24.6%	2.0%	11.2%	1.0%	5.2%	4.5%	26.2%	4.6%	45.4%	6.1%		

一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
	入場・参加者数	4,500	3,625	80.6%	
	展覧会満足度	80%	92.9%	+12.9pt	アンケートの「満足」、「やや満足」割合（無回答を除く）

観覧者層のターゲット	市内県内の近隣住民、現代日本画や女性作家の画業に関心を持つ美術愛好者、専門家、等
成果	・展覧会満足度（企画内容）において「満足」「やや満足」が計92.9%に達し、高い評価を得た ・アンケート自由記述において「（画家の）信念を貫く強さに感動した」「作風の変遷が豊か」「郷土作家の丁寧な回顧展を今後も希望する」など、企画への共感を得た。
ねらい1	郷土ゆかりの作家の再評価と顕彰
成果	・遺族の協力のもと、未整理資料・日記等の調査を通じ、塩原友子の多彩な画業を体系的に紹介できた。 ・調査により、詳細な年譜の作成、および一部作品の改題・加筆履歴の特定し、図録を発行した。
ねらい2	伝統的な日本画の枠組みを超える多様な表現の提示
成果	・拓摺り、コラージュ、ベニヤ板の半立体、曼荼羅、地元の風景など、技法と表現の変遷を紹介する構成とした。 ・アンケートにおいて「日本画の概念を覆された」「一人の作家とは思えない豊かさ」など、作家の挑戦的な姿勢に対する高い評価を得た。
ねらい3	教育普及と収蔵作品の活用
成果	・高校生以下の来館者層は約5%に留まったが、ワークシートを手に親子で鑑賞する姿が見られた。 ・展示作品114点中、収蔵作品は46点出展した。アーツ前橋開館以前に収蔵してから、展示する機会のなかった収蔵作品を展示し活用できた。
課題・改善点	プレスリリース配信、プレスツアー実施、担当記者への直接働きかけ等を行ったもののメディア掲載が少なく、地元紙での紹介も会期後半となったことが動員伸び悩みの要因となった。 単なる回顧展告知にとどまらず、記者の関心を惹く社会的背景や作家の独自性といったニュースバリューのある切り口の設計・情報提供が今後の課題である。